

HERITAGE

Builder：まつけんのリフォーム

伝統 × モダン

時間の積み重ねを新しい価値に変え

美しく住み継いでいく愉楽

長く使われ続けてきたものだけがもつ味わい、風情、息づかい。その魅力を日々感じながら、未来をも見据えた快適さと共に暮らし続けていくために。

住まい手にベストな「伝統 × モダン」を創造するリフォーム・リノベーションが、好きなエリア、好きな場所、好きな家に愛着をもって住む喜びを提供します。



心豊かに未来へ住み継ぐ

「Instagram等に紹介している施工例の“古き良きものを生かしたテイスト”に魅力を感じ、お問い合わせをくださるお客様が圧倒的に多いですね」と話すのは、まつけんのリフォームのディレクター、黒岩卓郎さん。昭和の時代に建築された民家の梁、柱、建具などを生かしつつ、現代的な空間に構成し直してリノベーションを施した同社の住まいは、まさに「伝統 × モダン」を体現しています。長く使われてきた木材の経年ゆえの風格や、

昔の職人が手を入れた道具跡がそのまま住まいの風景となり、「古き良きもの」と共に暮らす心豊かな時間を提供してくれます。そのおもむきや空気感に共感する人が、自らのライフスタイルと重ねて興味をもつでしょう。

リノベーションは、ある程度築年数を経た住宅を活用することから、現在だけでなく将来まで見据え、安心・安全・快適に住み継いでいくための性能向上が必須条件です。並行して、天井板で隠れて

いた屋根内の勾配を生かしたり、新たに土間や吹き抜けを設けたり、梁、柱を表しにしてデザインの一環にするなど、思いもよらない変貌を遂げることが可能です。

そこで大切になるのは、住む方がそこでどんな暮らしを望むのか、優先順位とゴールをきちんと見極めること。その上で、イメージにおいても費用面でもギャップが出ないよう営業・建築家・施工のチームで検討を重ね、住み手のベストを目指すのです。



A B | C | D
E

「LIXIL メンバースコンテスト2022」リフォーム部門 地域最優秀賞を受賞した「内と外がつながる土間の家」(長野市)

A_ライフスタイルに合わせて実家をリノベーションした例。庭とつながり開放的に暮らせるモダンな住まいに。 B_木の素材とめくもりが統一感を生むキッチン。作業がいつそう楽しくなった。 C_ゆるいカーブを描く下がり壁が、空間をさりげなく仕切る。 D_造作の洗面台と収納は、機能性を重視してシンプルかつ美しく。 E_中と外の中間領域として、リビングの一角を土間にした。視界が開ける方向に配置したことで、面積以上の広がり感を得られている。



PROCESS

住まい手の「ベスト」をゴールにするリノベーション。

既存の良さをどう生かし、性能向上とのバランスを実現するか、
すべては「ベスト」を見極め、ブレないゴールを目指すことから

PROCESS 1

情報共有と課題の整理

膨大な情報を共有し、課題を整理することがリノベーションの第一歩です。住まい手の思いや理想のライフスタイル、現状での悩み、予算感などを丁寧にヒアリング。同時に、建物に対する理解を深めて全体像を把握し、課題を整理していきます。

PROCESS 2

ゴールの設定とプランニング

整理した課題をもとに、目指すべきゴールを策定します。施主・設計者・ディレクターの三者で内容を確認、共有しつつ予算感も踏まえて計画。安全安心な暮らしのために、住宅性能の向上も視野に入れながらプランを提案し、納得のいくまで検討していきます。

PROCESS 3

施工から引き渡し、理想の暮らしへ

建てられた時代や建て方、使われている素材など、一棟一棟すべてが異なるリノベーション。優れた技術と幅広い知見を備える施工のプロたちが、それぞれの木造住宅を見極め、現場での打ち合わせを定期的に行いながら施工。厳しい竣工検査を経て、引き渡しとなります。



住む方の「ベスト」を
常に考えながら
リノベーションならではの提案を



ディレクター
黒岩 卓郎さん

時間を重ねてきた既存のデザインや風合いをできる限り生かし、新たな空間へと再構築するのが私たちのリノベーションです。計画段階から物件を確認し、多角的に調査。リノベーションに耐えうるか、作業に支障はでないか、周辺環境はどうかなど、現地でしかわからないことも含め、さまざまな観点から評価します。安全性はもちろんのこと、総合的にプロデュースすることで、お客様の「ベスト」に近づけるよう進じます。リノベーションだからこそ実感できる「ゆとり」をお届けします。



F_祖母の家を引き継いだ若夫婦の住まい。見事な梁と柱を生かしてダイナミックな空間を構築した。 G_純和風の平屋をナチュラルモダンに再生。三間続きの和室と廊下をLDKに改修し、材の切り替えや梁・柱の見せ方でゾーニングすることで、多彩な居心地を盛り込んだ連続性のある空間を実現した。 H_中古住宅を北欧テイストとヴィンテージ感漂う空間に刷新。自分たちらしさをプラスした個性的な住まいとなった。 I_美容師のお母様との同居を機に、店舗併用住宅へ再構成。住居と店舗を緩やかに隔て、つなぐことで、3世代が気兼ねなく暮らせる家に。店舗は、欄間を生かしてグリーンが映える設計とした。

CASE STUDY

「LIXILメンバーズコンテスト2024」リフォーム部門地域最優秀賞受賞

光を操るコンクリートブロック造の住まい

千曲市

デザイン協力：トベアーキテクト一級建築士事務所



リフォーム部門
地域最優秀賞



光を招く吹き抜けのホール。南窓の光がR形状の天井や壁に反射し、階下の隅々にまでやわらかく行き渡る。

思い出が眠る住まいに命を吹き込む
リノベーションという選択

県外にお住まいのご夫妻。ご主人の定年を機に、いつしか「夫婦二人で静かに過ごせる終の住処」に思いを馳せるようになったといいます。

帰郷の準備を進める上でネックとなったのが、長らく空き家となっていた築60年のご実家。ご主人が生まれ育った医院併用住宅で、コンクリートブロック造のため、間取りの変更が難しいという制約を抱えていました。当初は建て替えも視野に入れていましたが、建物自体のコンディションが良好だったこと、なによりご両親の思い出が詰まった住まいであることから、最終的に“リノベーション”を選択しました。

夫妻が新居に望んだのは、ゆったりと暮らせる環境です。老後の生活を考えて、ワンフロアで落ち着いて過ごせる動線を基本として、夫婦それぞれの居室を設けること、手入れしやすい庭へ整えること、そして所有する絵画を美しく飾れるスペースを確保することなどが、新たな暮らしの要件として出されました。



R形状の下り壁が、キッチンとダイニングを印象的に仕切る。



水平ラインを強調したモダンな佇まい。



CB造×和風建具が独特の趣を醸すホール。



障子を間仕切りに生かした明るいリビング。



重厚な格天井が歴史を物語る玄関。

伝統とモダンを融合させて、思い出と新たな日常をつないでいく

設計にあたって意識したことは、「コンクリートブロック造の魅力を生かす」という視点。幅広の中廊下や小間が連なる間取りは住宅向きとは言えませんが、“重厚感”と“静謐さ”こそ、コンクリートブロック造の魅力と捉え、洗練された空間に再構築しました。構造的に減築ができないため、使わない2階部分の床を抜いて吹き抜けに。閉塞的だった中廊下に

光が落ちるよう、天井部分をアール形状にする工夫が施されています。コレクションの絵画をここに飾れば、まるで美術館のような趣。さらに、南側の1室を中庭に改めたことで、側面からも光と風が採り込めるようになりました。部屋同士に心地よい距離感が生まれたことで、暮らしに余白が生まれています。ほかの空間も、格天井や組子細工と

いった和の造作はそのまま生かし、新たな設えとしてアールを多用。情緒と意匠を融合させ、建物に新たな命を吹き込みました。ご主人が幼少期を過ごした在りし日々と、ご両親が暮らした過去、そしてご夫妻が新たな人生を紡ぐ未来——。これからは、空き家だった築60年の建物に、さらなる思い出が刻まれていきます。